

公益財団法人鉄道弘済会  
第61回社会福祉セミナー  
2025年7月5日（土） 基調鼎談

# 知的障害のある人の自立生活と介助

NPO法人IL&Pアシスト理事長、介助者  
寺本 晃久（てらもと あきひさ）

# 自立生活運動、と略歴

## 1970年代

- ・ 比較的重度の障害のある人が、介助を使って自立生活を始めた
- ・ 介助者はボランティアまたは自分で探した介助者  
東京や大阪などで脳性麻痺者介護人派遣事業が始まり、  
自分の介助者を自分たちで探し始めた

## 1980年代

- ・ 自立生活センター（CIL）が広がり始めた
- ・ グループホームが制度化された

## 1990年代

- ・ 24時間介護保障が実現し、CILなどがヘルパー事業の委託を受ける
- ・ 介助を得て、自立生活を始める知的障害のある人たちが出てきた

# 自立生活運動、と略歴

1994年頃から

東京の多摩地区で知的障害の当事者活動に関わる  
→ 施設から自立生活する人の暮らしを横目で見ると

2001年頃から

身体障害や知的障害のある人の自立生活の介助を始める

2003年 支援費制度施行 (措置から契約へ)

2004年 日野市で介助派遣を始める

2006年 障害者自立支援法施行

2014年 障害者総合支援法に解消 (重度訪問介護の対象者拡大)

# 法人としては、

主に知的障害のある人の生活支援をしてきた

## 【現状】

- ・利用者30名、介助者も30名程度
- ・サービス種別は、  
介助者派遣、グループホーム、放課後等デイサービス
- ・利用頻度は、  
月1回の移動支援から、ほぼ毎日の介助も

# 介助って何をする

- ・家事 … 調理、掃除、洗濯など
- ・身体介護 … 入浴、食事、動作や移乗、排泄など
- ・外出のつきそい … 道案内、お金の扱い、危険回避など

# 時間と内容が決まっている

たとえば

8:00～9:30 朝食、身だしなみ、服薬、洗濯

10:00～16:00 就労継続支援や生活介護など

17:00～21:00 買い物、夕食、入浴、歯磨き、就寝準備など  
(泊まりの場合はそのまま朝まで)

# 介助だけでは成り立たない①

これでも、「生活はできる」のだけど…

「介助＝ごはんを作る」だけでは生活はなりたたない

「いる」「見ている」のが仕事

1ヶ月、1週間、今日の目の前のその人の状況や調子を見て、  
「今日、何をするか」を判断する

## 介助だけでは成り立たない②

毎回ちがうことがある

調子がちがう、気持ちがちがう、天気がちがう…

それに合わせて、何をするか考える

気持ちや調子をちゃんとは言ってもらえない

→介助者が変化に気がつく

表情、動き方、言葉づかいを注意深く「見ている」

## 介助だけでは成り立たない③

本人の生活や、本人と周囲をつなぐ枠組みが必要

- ・ お金の扱い。
- ・ スケジュールの調整、介助シフトの調整。
- ・ 医療面での判断。
- ・ 相談にのる。電話などで日常的に連絡を受ける。
- ・ ルールを作る。でも厳格にしすぎないこと。  
→この案配は難しい。

## 介助だけでは成り立たない④

こうした枠組みにおいて、それを作り、維持していくことにおいて、ほとんどの場合、

「相談支援などといったこと＝公的な資格をもった人」が  
機能することはない

ひとりではなく、複数の、少しずつ役割や立場が違う人が、有機的に関係しあったりフォローしあえる枠組みが必要

# 介助だけでは成り立たない⑤

(特に) 障害が比較的軽い人について、

- ・ 孤独感
  - ・ ネガティブな体験
  - ・ 「依存」
- etc…にどう対応していくのか